

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字四番代426-1番地		
自己評価作成日	令和5年12月7日	評価結果市町村受理日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2192200018-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は利用者様一人ひとりの生活習慣を大切に、ご自分のペースでゆったりとすごせる生活の場となっています。5月にコロナが5類に移行し、少しずつ地域との交流やボランティアの訪問など再開しています。外出は控えている為、季節に沿ったイベントや誕生日会は、利用者様、職員と一緒に参加し大いに盛り上がります。家族様にはお便りでイベントの写真や日々の様子をお知らせし、毎月楽しみにされています。利用者様について常に相談し、また家族様からの要望、意見を伺い信頼される施設となるよう努めています。常勤で看護師がおり、主治医や近隣の医療機関、家族様と連携し、重度の方や終末期の方の受け入れ、看取りケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は家族の思いを汲み取り、分からないことや不安なことなど相談に乗ることで信頼関係が構築できるように取り組んでいる。医療機関から終末期の利用者を受け入れている。終末期でもシャワーやトイレ、食事など利用者の希望が叶えられるように職員間で話し合いながら取り組んでADLが向上した方もいる。家族より在宅への復帰を希望される場合は地域のケアマネジャーと相談しながら自宅に復帰された方もいる。管理者は、職員の意見を大切に利用者の参加の有無を確認して一緒に楽しめるようにアドバイスしている。家族の意向を確認して利用者の状態を把握し、職員間で話し合いながらあきらめないケアに取り組んでいる。利用者職員が和気あいあいと楽しく過ごせるように取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をもとに毎年それぞれのユニットで独自のチーム目標を立て、朝夕のミーティングで唱和している。利用者が自分らしくゆったりと過ごされるよう利用者本位のケア、自立支援の実践につなげている。	管理者は従前の生活が継続できるように支援することを職員に伝えている。職員は、家族と相談しながら利用者のペースを大切に望みが叶えられるように取り組んでいる。管理者は事業所の理念が解りにくいと考えており共有する取り組みが不十分である。	理念について職員と話し合い、事業所一丸となって目指す方向性を明確に出来るような取り組みを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児の訪問や中学生の職場体験などの交流の機会は以前より減っているが、今年の秋祭りは地元子供会のみこしが4年振りに施設を訪れた。また地域の方や地元ボランティアの訪問など少しずつ再開している。	散歩に出掛けた時に近所の方と挨拶を交わしている。地域の方より野菜をいただいている。事業所の夏祭りに地元のボランティアにお願いしてギター演奏会を行っている。地域の子供会からちぎり絵をいただいて利用者と一緒に写真を撮って子供会に送っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月まで書面にて入退所状況、活動報告やアクシデント報告等をお伝えし返信による意見を議事録としていたが、8月より会議を開催している。地域や行政、家族が出席し、意見交換やアドバイスを受けている。内容をユニット会議で職員と話し合い周知している。	8月より対面で会議を行い事業所の現状や活動状況、事故などを報告して話し合っている。出席者や出席していない家族に議事録を送付している。消防署員より「緊急時の救命処置の意向確認」のアドバイスから、利用者の状態が変化した時に家族に意向を確認するように取り組んでいる。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢介護課、社会福祉課、地域包括と電話やメールで連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議に出席時は助言などいただいていた。事故報告書の提出や急な入所など迅速に対応している。	管理者は市から依頼を受け小学校で認知症サポーター養成講座の講師を行っている。事故報告書の提出や利用者の要介護認定更新申請の手続きに市の担当者を訪れて情報を交換している。市からケアプラン支援事業への参加を打診されて出席し情報を交換している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主体で委員会を立ち上げ、身体拘束・虐待防止について取り組み、職員はスピーチロックなど外部研修を受講している。人感センサー使用に対しては家族に説明、了承を得、毎月ユニット会議で検討している。	法人の身体拘束防止委員会に出席し具体的な事例の改善策を職員で話し合っ報告している。委員会で話し合った内容を会議で職員に報告し話し合っている。管理者は気付いたことを直接伝えたり、会議や申し送りで職員に伝えている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主体で委員会を立ち上げ、身体拘束・虐待防止について取り組んでいる。ユニットに啓発ポスターを掲示し職員の意識づけを図っている。今年度は不適切ケア・虐待の視点でケアの検討会を開いている(今年度各ユニット4名)	日頃の言葉使いについて個人ワークを行いユニット会議で話し合っている。外部の虐待防止研修会に職員が参加して会議で報告している。職員に虐待チェックリストを行ったり事業所内にポスターを掲示したりして虐待防止に取り組んでいる。	

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間計画を立て、勉強会をユニット会議にて行っている。成年後見制度を利用している利用者もいる。制度を活用できるよう関係者と連携を取っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時は、利用者・家族の事情を踏まえ丁寧に説明し理解を得、書面にて承諾いただいている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時、運営推進会議、年に1回の家族アンケートにて意見や要望を伺い職員に伝えたり会議で検討している。利用者がいつでも意見・要望を言いやすい関係作りを心がけている。管理者は窓口として随時家族と連絡を取っている。	面会時や電話にて利用者の近況を伝えて家族の意見を聞いている。メールやSNSで近況を伝えることもある。年1回家族アンケートを行い意見を聞いている。家族より、外出の要望があり事業所の感染対策を説明して帰宅している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員が意見や提案を言いやすい関係作りに努めている。日常の業務以外に年2回の個人面談を実施し意見を聞いている。提案・要望には随時対応している。	管理者は、職員と一緒に業務を行い話しやすい雰囲気作りに努め職員の意見や要望を聞いている。提案された意見をSNSを活用して情報共有している。管理者は職員の意見を大切にして利用者が参加して楽しめるようにアドバイスしている。業務内容、勤務時間など職員の意見を反映して見直している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	それぞれの職員の希望・事情に配慮したシフト調整、労働条件に応じた手当の整備など、職場環境作りに努めている。	管理者は年齢や体調など個別の事情や家族の状況を把握して勤務表を作成している。家族の事情で急に休むこともできる。全職員にハラスメント防止規定を配布している。定期的にハラスメントチェックリストを行ったり、事業所内にポスターを掲示したり働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、法人内外の研修受講に取り組んでいる。オンラインの整備やシフトの調整など、研修を受けやすい環境作りに努めている。	管理者は外部研修の情報を職員に提供して希望する研修に参加できるように配慮している。研修の費用は事業所が負担して、勤務として参加している。管理者は職員の力量を把握して受講して欲しい研修を提案している。外部研修を受講して会議で他の職員に報告している。	

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業者と毎月の会議及び随時意見交換、勉強会を行っている。会議の内容は職員に周知しサービスの質の向上を図っている。他の同業者とはケアサービス連絡会(勉強会)に出席し交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人される人の立場におかず、日々の生活の中で支え合う関係作りに努めている。人生の先輩であることを忘れず、感謝と尊敬の気持ちを持って接する。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の要望や意向を伺い、職員間で共有している。困難な場合は、表情や行動から把握するように努め、本人本位の立場に立ち職員間、家族と検討している。	入浴や夜間など1対1となった時や日常の会話の中で利用者の思いを聞いている。利用者や気の合う職員が意向を聞いて職員間で共有している。困難な場合は職員から問い掛けて声のトーンや表情、しぐさから意向を把握して職員間で検討している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日頃の様子や関りから課題を抽出し、本人、家族の意向、医師の意見を取り入れながらケア会議で検討している。毎月モニタリングを行い随時計画の見直しをしている。	家族の状況に合わせて電話やメールで利用者の状態を伝えて計画への意向を聞いている。会議で話し合い職員の意見や気付きを反映して計画を作成している。モニタリングは毎月担当職員が実施し排泄の自立や看取りなど現状に合わせて随時見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で気づいたことは、個別記録や申し送りで職員間で共有し、計画の見直しや実践につなげている。	利用者が行ったこと・職員が行ったこと・その結果と分かりやすいように記録している。利用者の状態や変化、薬の変更など申し送りに記入して情報を共有している。個別の記録や職員の気付き、意見を参考に日常のケアや介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関りの中から本人に必要とされるニーズを把握し、固定観念に捉われずニーズに沿った支援に取り組んでいる。	管理者は家族に不安なことや分からないことなど何でも相談して欲しいと伝えている。家族が受診に同行できない場合は職員が受診に同行し結果を報告している。面会は予約制であるが、急に面会に来所された場合でも面会できるように柔軟に対応している。	

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月美容師が休日に訪問し、利用者と歓談しながら好みのヘアスタイルにカットしている。地域住民が植えた野菜の成長を見に畑に行ったり職員と収穫している。地域のボランティアの訪問も再開しつつある。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医について説明し納得の上で訪問医療を受けていただく。状況により今までの医療を継続する場合もある。看護師は随時医師と連携している。歯科医の往診も定期的にある。	従前のかかりつけ医の受診は家族が同行している。急病時や家族の要望があった時は職員が医療機関まで送迎し家族と待ち合わせしている。家族が同行する場合は利用者の状態を口頭で伝えて結果を確認している。分からないことがある場合は家族に依頼して医療機関に確認している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院関係者や家族と情報交換し、本人の状態を把握している。家族の意向、病院、主治医と連携し速い段階で退院できるように努めている。	入院時は看護職員が看護サマリーを作成して医療機関に提供している。入院時の状態は看護職員が医療機関に電話で確認している。退院時は医療機関や家族より連絡があり退院カンファレンスに出席して状態を把握して家族の意向を確認し受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の対応について指針を説明し同意を得ている。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる。	契約時に事業所の方針を説明している。利用者の状態の変化に伴い家族の意向を確認して沿えるように取り組んでいる。医療機関から終末期の利用者を受け入れている。看護職員より定期的に勉強会を行い予測される状況や個別の対応など職員に説明している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に適切な対応が出来るように対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。職員は日頃から看護師と連携し実践力を養っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。実施後は必ず振り返りを行い、反省点・課題を抽出し次回に繋げるようにしている。地域住民とは協力体制について随時話をしている。備蓄品を準備している。	煙体験や初期消火、訓練の振り返りなど工夫して訓練を行っている。水や食糧、生活用品など備蓄している。地域の代表者より災害発生時の協力について承諾を得ているが訓練への協力が得られていない。年2回訓練を行っているが夜間を想定した訓練を行っていない。	運営推進会議や関係機関に相談して夜間想定訓練を行って欲しい。利用者の状況を理解していただき訓練を含めて災害発生時の協力体制を構築できるように継続した働き掛けを期待する。

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアにあたる時は、自尊心やプライバシーに配慮した対応を心がけ、言葉遣い、声の大きさ、トーンに注意して声をかけている。居室扉のガラス窓は塞ぎ、トイレを使用時はカーテンを閉め、職員は外で待機している。	管理者は排泄の誘導時や排泄を失敗した時など利用者の自尊心を傷付けないように伝えている。耳が聞こえ難い方には筆談している。利用者の名前や要介護が記入されたケアの振り返りシートが廊下に掲示されており誰でも見る事が出来る状態であった。	利用者のプライバシーの確保について職員間で話し合うことを期待する。
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から思いや希望を話しやすい雰囲気作りに努めている。自分で選んだり決めることができるような言葉かけを心がけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にし、本人のペースで一日を過ごせるように支援している。休息やトイレなど、こちらから提案する時もある。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状況に応じ、食器の形状、お箸、スプーンなど選択している。パンランチ、寿司、弁当を購入など気分を変えて楽しみのある食事の機会を持っている。下膳や片づけを手伝っている。	普段の会話で食べたい物を把握して弁当や寿司、鰻、職員が考えたスペシャルランチなど提供している。気候の良い日には屋外で昼食を楽しむこともある。おかわりやコーヒーなど利用者の希望に合わせている。利用者の起きる時間に合わせて朝食を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に必要とされる食事量、水分量が確保できるように、食事形態や量を一人ひとりの状態に合わせている。家で習慣となっていたコーヒー、おやつなど家族が協力して用意している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりのできる力に応じて歯ブラシ、スポンジブラシなど選定し、口腔ケアを行っている。定期往診以外に急な治療もお願いしている。また毎月1回、歯科衛生士による口腔ケア勉強会を行っている。	毎食後、利用者の状態に合わせて見守ったり、声を掛けたりしている。出来ない方には職員が口腔ケアを支援している。歯科医師が来所した時に口腔内の状態を確認して口腔ケアについて職員にアドバイスしている。訪問歯科の歯科衛生士が来所し職員に対して勉強会を行っている。	

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。立位の難しい利用者は二人介助にてトイレを使用している。テープ式おむつは使わず、紙パンツとパッドで対応している。一人の利用者は夜間のみポータブルトイレを使う。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ADLを検討し重度の利用者は機械浴、それ以外の利用者は個浴を利用している。利用者の希望やその日の体調に合わせ柔軟に支援している。入浴中は職員と楽しく会話する姿が見られる。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の空調や寝具を整え、気持ちよく眠れるよう支援している。一人一人に応じて、トイレ誘導、パッド交換、体位交換など安眠に向けて支援している。生活習慣や本人希望時、体調に応じて日中も休息する時間を持つ。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員も把握できるように、薬情をユニットの記録ファイルに綴じてある。薬の変更、調整は看護師が職員に申し送り、周知している。服薬支援は複数の目で確認し、誤薬・落薬防止に努めている。症状の変化は速やかに看護師に報告する。	誤薬を防ぐために内服の手順書を作成している。看護職員が薬をセットして日付や名前を呼称して飲み込むまで確認している。薬に変更があった場合は申し送りに記入してSNSで情報を共有している。看護職員は利用者の状態を観察して医師に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴は、本人の聞き取りや家族からの情報などで把握に努めている。テレビを視たり新聞を読んだり、時にはイベントやレクで気分転換し、楽しみや喜びのある暮らしを支援している。	家族より生活歴を把握して洗濯干しや洗濯たため、掃除など利用者の出来ることを手伝っている。事業所の畑で利用者と一緒に野菜を育て収穫している。家族に相談して利用前から好きな塗り絵や読書を継続できるように支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はまだ控えている状況だが、家族と相談し日帰りで自宅に戻られた利用者がある。毎年行っていた花見は、大型車ではなく軽自動車でも個別に何回か行き実現できた。天気の良い日は外を散歩したりベンチで日向ぼっこ、畑を見に行ったりしている。	桜や紅葉など季節の花見に少人数でドライブに出掛けている。利用者の希望により職員と一緒に買い物に出かけた時にドライブに行く方もいる。家族より法事に出席させたいと要望があり職員が自宅まで送迎している。家族の協力を得て銀行へ出掛けたり帰宅されたりする方もいる。	

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、できるだけ本人の希望に添うよう支援している。現在は外出を控えている為、家族に依頼したり職員が購入している。物品によっては職員と出かけ、自ら選んで支払うことがある。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話を取り次いでいる。状況に応じ、代わりに家族に伝えるなど支援している。手作りの年賀状や暑中見舞いはがきを家族に送り喜ばれている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、空調や採光に配慮し居心地よく過ごせるよう努めている。冬は加湿器を設置する。玄関やリビングに季節感のある飾りや利用者の手作り作品、イベントの写真など掲示し職員と一緒に楽しんでいる。壁飾りの模様替え時は興味津々な様子で見守っている。	季節の感じられる作品を廊下やリビングに飾り会話のキッカケとなっている。大きな天窓があり眩しすぎないように採光に気を付けている。職員は昼寝や会話、運動など利用者のやりたいことが出来るように支援している。温度や湿度、換気などに配慮しながら快適に過ごせるように心掛けている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席以外にソファに座り、気の合った者同士や職員と談笑したりテレビを視たりされる。冬場は日当たりの良い廊下にイスを持ち出し、外の山々を眺めていることがある。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁には、家族や昔懐かしい写真が飾ってあったり、本人が作った作品や誕生日の写真が貼ってある。居室に使い慣れた物を持ち込み愛用されている。テレビを視たり読書にふけるなど自由に過ごしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること、わかることを把握している。移動に際し、廊下の手すりを利用したり、導線上の障害物を撤去するなど、安全な環境の中で安心して生活が送れるよう支援に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200018		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム南濃「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市南濃町松山字四番代426-1番地		
自己評価作成日	令和5年12月7日	評価結果市町村受理日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2192200018-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をもとに毎年それぞれのユニットで独自のチーム目標を立て、朝夕のミーティングで唱和している。利用者が自分らしくゆったりと過ごされるよう利用者本位のケア、自立支援の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児の訪問や中学生の職場体験などの交流の機会は以前より減っているが、今年の秋祭りは地元子供会のみこしが4年振りに施設を訪れた。また地域の方や地元ボランティアの訪問など少しずつ再開している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月まで書面にて入退所状況、活動報告やアクシデント報告等をお伝えし返信による意見を議事録としていたが、8月より会議を開催している。地域や行政、家族が出席し、意見交換やアドバイスを受けている。内容をユニット会議で職員と話し合い周知している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢介護課、社会福祉課、地域包括と電話やメールで連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議に出席時は助言などいただいていた。事故報告書の提出や急な入所など迅速に対応している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主体で委員会を立ち上げ、身体拘束・虐待防止について取り組み、職員はスピーチロックなど外部研修を受講している。人感センサー使用に対しては家族に説明、了承を得、毎月ユニット会議で検討している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主体で委員会を立ち上げ、身体拘束・虐待防止について取り組んでいる。ユニットに啓発ポスターを掲示し職員の意識づけを図っている。今年度は不適切ケア・虐待の視点でケアの検討会を開いている(今年度各ユニット4名)		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間計画を立て、勉強会をユニット会議にて行っている。成年後見制度を利用している利用者もいる。制度を活用できるよう関係者と連携を取っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時は、利用者・家族の事情を踏まえ丁寧に説明した上で理解を得、書面にて承諾をいただいている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時、運営推進会議、年に1回の家族アンケートにて意見や要望を伺い職員に伝えたり会議で検討している。利用者がいつでも意見・要望を言いやすい関係作りを心がけている。管理者は窓口として随時家族と連絡を取っている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員が意見や提案を言いやすい関係作りに努めている。日常の業務以外に年2回の個人面談を実施し意見を聞いている。提案・要望には随時対応している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	それぞれの職員の希望・事情に配慮したシフト調整、労働条件に応じた手当の整備など、職場環境作りに努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、法人内外の研修受講に取り組んでいる。オンラインの整備やシフトの調整など、研修を受けやすい環境作りに努めている。		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の同業者と毎月の会議及び随時意見交換、勉強会を行っている。会議の内容は職員に周知しサービスの質の向上を図っている。他の同業者とはケアサービス連絡会(勉強会)に出席し交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるので、真摯に本人の言葉に耳を傾け、助け合いながら共に生活が送れるような関係作りに努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中の会話から希望、意向を把握している。家族とも相談し、本人本位を意識して検討している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日頃の様子や関わりから課題を見出し、家族の意向や主治医の意見を取り入れ、ユニット会議で検討している。毎月モニタリングを行い、計画の見直しにつなげている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で気づいたことは、個別記録に記入、申し送りを行い、職員間で共有している。計画の見直しや実践に活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の会話や関わりの中から、本人に必要なとされるニーズを把握する。固定観念に捉われずニーズに沿った支援に取り組んでいる。		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月美容師が休日に訪問し、利用者と歓談しながら好みのヘアスタイルにカットしている。地域住民が植えた野菜の成長を見に畑に行ったり職員と収穫している。地域のボランティアの訪問も再開しつつある。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医について説明し納得の上で訪問医療を受けていただく。状況により今までの医療を継続する場合もある。看護師は随時医師と連携している。歯科医の往診も定期的にある。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はサマリーを作成し、利用者の情報提供を行う。また看護師は随時病院関係者や家族と情報交換し、本人の状態を把握している。家族の意向、病院、主治医と連携し速い段階で退院できるように努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の対応について指針を説明し同意を得ている。また本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員で連携をとり、随時意志確認をしながら支援に取り組んでいる。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に適切な対応が出来るように対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。状況に応じて、看護師と職員で対応について確認、見直しを行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。実施後は必ず振り返りを行い、反省点・課題を抽出し次回に繋げるようにしている。地域住民とは協力体制について随時話をしている。備蓄品を準備している。		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに自尊心を傷つけないよう配慮して言葉を選び、その人に合った言葉で声かけを行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や関わりの中で、本人の思いや希望、要望を聞き取るよう努力している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた時間の過ごし方を支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートでお好み焼きを作ったり、ワンプレートや重箱にしたりと食器類を工夫し、目と味で楽しむ機会を作っている。パンランチやケーキバイキングなど、職員も一緒に楽しんでいる。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスをしっかり把握し、一人ひとりに合わせた形態を職員間で検討しながら提供している。水分量にも気をつけ、できるだけ本人の好きな飲み物を用意し、水分不足解消に努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりができる口腔ケアを行っている。月に一度の歯科衛生士によるアドバイス、勉強会による知識で、職員が状況に合わせた口腔ケアを行っている。(歯ブラシ、スポンジブラシ、うがいのみの方がいる)		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに合わせた排泄パターンを実行。量・回数を把握し、パッドのサイズを変えたり二人介助にてトイレでの排泄を支援するなど、できる限り自立を目指している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体の機能に応じて、個浴か機械浴に選定している。個浴でもリフトを使うなどその人に合わせた入浴方法で支援している。入浴のタイミングも個人の気分、状況に合わせている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の環境を整え、就床を支援している。不眠時は寄り添い、活動状況を把握し転倒転落リスクに備え見守りを行っている。日中も一人ひとりに合わせて休憩時間を設けている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をしっかり把握し、看護師と情報を共有している。服薬の状況を報告、連絡、相談しながら行っている。誤薬・落薬が無いように複数の目で何度も確認。飲み込みまで見守り支援している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる事への支援や他者と協力しながら、喜びや張り合いのある生活を支援している。家事を積極的に手伝う人、地域の友人が面会に訪れる人などそれぞれに支援している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は外出をなるべく控えているが、自分の使う物品を職員と買いに行くことがある。今年のお花見は、一人、二人と少人数ずつ分けて出かけ実現している。		

グループホーム南濃「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、できるだけ本人の希望に添うよう支援している。現在は外出を控えている為、家族に依頼したり職員が購入している。物品によっては職員と出かけ、自ら選んで支払うことがある。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば電話を取り次いでいる。状況に応じ、代わりに家族に伝えるなど支援している。年賀状や暑中見舞いを家族に送り喜ばれている。手紙やはがきが届いた時は、何度も読み返し、いつでも手に取りやすいところに保存してある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調や光に配慮し、リビングや玄関は季節感あふれる飾り付けがされている。手作りの作品やイベントの写真も飾られ、会話に一役買っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席やソファで利用者同士や職員とおしゃべりしたり、一緒にテレビを視たり、外のベンチでくつろぐなど思い思いに過ごせるよう支援している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁やタンスの上に家族の写真や思い出の物、自作の作品、誕生日やイベント時の写真など貼ってある。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること・わかることを把握している。移動時の手すり利用の声かけ、導線上の障害物の撤去など行う。車いすの構造上の危険箇所を把握し、安全に使用できるよう支援している。		